

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の



ほう ちゅう かん

あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その 42

～ つちふる 霾 ～

ようやく、長く雪の多かった冬も明け、春が感じられる季節になりましたが、この季節になると悩まされるのが、中国やモンゴルの黄土地帯で強風に巻き上げられた黄色い砂塵が、日本にまで飛んでくる「黄砂」です。

最近では、中国の大気汚染物質であるPM2.5も日本まで飛来し、頭を悩ませる大きな問題となっています。

「黄砂」は、「つちふる」とも呼ばれ、まさに土が降るという意味です。漢字の「霾」は一字で「つちふる」と読みますが、また、「よな」とも読んで、舞い上がった砂塵のせいで空が暗くなることを「霾晦(よなぐもり)」と言います。

時々、能代にも一年のうち何日か「霾晦」がありますが、車が黄色く埃をかぶったようになり、空気も土臭く、洗濯物も外に干せません。これも春の証の一つですが、あまり有り難いものではないですね。

ジンギスカン走りし日よりつちふる霾れり
(有馬朗人あきと)

能代市長 齊藤滋宣



3月30日、河戸川で関東能代会と河戸川自治会の皆さんが桜の植樹を行いました。